

# 地質ニュース

昭和 52 年 5 月

第 273 号

1977

解 説	昭和52年度の地質調査所の研究(1)……………企画室…1
	海浜砂礫のおいたちを鹿児島県新島 <sup>しんじま</sup> に探る……………磯部一洋…11
	地震予知に関連する地下水の化学的性質……………池田 <sup>いけだ</sup> 喜代治…20 阿部 <sup>あべ</sup> 喜久男
	構造地質学ノート ②グラルス断層運動とスイスアルプスの形成……………星野一男…44
	イギリス地質学会ウィリアムスミス招待講演会 (The William Smith Lecture Meeteng)に出席して……………石原舜三…30
国際会議	太平洋地域の上部新生界(その2)……………福田 <sup>ふくだ</sup> 理夫…32 ～第1回太平洋地域新第三系国際会議より～
海外事情	ハノイ1976年3月……………岸本文男…53
	都城 MIYAKONOJŌ……………木野 <sup>きの</sup> 義人…60 太田 <sup>ただ</sup> 良平
	学会掲示板……………29

## 編集 地質調査所

### 表紙の写真

### 大隅石 (osumilite)

大隅石はその名の示すように 初産地の<sup>おつぐら</sup>大隅国に因んで命名された。桜島のつけねの位置にあたる大隅半島咲花平の流紋岩の気孔から発見された 黒っぽい六角短柱状の鉱物である(美しい青色のものもある)。はじめ董青石(cordierite)として記載されたが 1953年都城秋徳氏によって 董青石と構造が類似した別種の新鉱物であることが確認され 大隅石が誕生した。この研究に伴い 董青石の高温型である indialite も発見された。大隅石はその後 国内外の火山岩の晶洞やゼノリスから何例か報告されている。Na・K Mg・Fe Al などのごく普通の元素からなる高温の造岩珪酸塩鉱物の発見は 戦後の新鉱物の中でもヒットの一つとってよいであろう。さらに カナダの先カンブリア紀のグラニュライト中の変成鉱物として 大隅石が産することが 最近報告された。また 大隅石と結晶構造が同じで 化学組成の異なる新鉱物 merrihueite roedderite yagiite が隕石中から次々と発見され 大隅石の一族をつくるにいたっている。この標本は鹿児島湾北岸隼人町浜の市産の流紋岩溶岩(本ニュース No.262 の鉄かんらん石と同産地)の気孔中のもので C軸が横を向き 半分埋もれているので 六角柱の柱面を見せている。

(採集 山田直利 文 小野晃司)

発行 株式会社 実業公報社